

Y. Y. 英語英文学科・3 年次

I. 留学レポート

① 協定留学を目指した理由

私は大学で教職課程を履修していて帰国後も科目等履修生として卒業後も大学に 1 年通わなければならないということで、最初は協定留学をするのにとっても踏みとどまっていました。けれども、自分の今後の視野を広げるためと、英語のスキルアップのために今回の留学を決めました。

② 留学を目指してから出願までの英語学習方法

留学に行きたいと決めてからは、とにかく TOEFL 対策をしました。私はリーディングが苦手なので、それ専用の参考書を買って重点的に勉強しました。

③ 留学決定から出発までの準備期間

留学が決まって、出国までに、語学学校への申し込みやビザの申請などの手続きになかなか追われた気がします。アメリカ留学（特に春スタート）はそういったものを全部自分でしなければならなかったもので、少し大変でしたが、これも留学の一つとして頑張りました。ビザ申請ではアメリカは場合によっては申請が下りるのに 1 か月かかると聞いていたので、結構早いうちにとりかかっていた。なんでも早めの行動がおすすめです☆

④ 現地到着後

ワシントンのダレス空港に到着後、語学学校の人が車で迎えに来てくれて、そのまま学校先まで連れて行ってくれました。空港から学校まで大体約 2 時間ぐらいです。オリエンテーションは 2 日後に始まりました。到着後、とても疲れていたのを覚えているので、疲れをとったり、環境に少しでも慣らしたりするためにも、余裕をもった到着がよいと思います。

⑤ 語学研修期間

◆語学研修先

語学研修先は、Eastern Mennonite University という、大学付属の語学学校に行っていました。過去にも何人か同女の先輩がいていたのもあってそこにしました。決して都会ではないですが、とても落ち着いていて住みやすい場所です。また、学校にはアジア人の占める割合がかなり少なく、日本人はその年は私一人だけだったので、英語のスキルアップ（特にスピーキング）にはもってこいの環境でした。

◆授業内容

授業は金曜日以外は 8:30～5:00 くらいまでみっちり授業するので、少ししんどいと思うこともありましたが、内容的には本当に英語の 4 skills を図るものなので、そこまで難しくはないです。課題も同女で過ごしてきた学生さんにとってはそこまで多いと感じることもないと思います。ただ、当たり前ですが、どの授業でもスピーキング力は必要であり、自分の意見を求められる場面が多々あったので、なかなか言えなくて辛い思いをしたこと

もあります。なので、出国前に日本のこと、自分のことを少しでも英語で表現できるように練習しておけばよかったと思いました。

⑥ 正規科目履修期間

◆大学の施設、環境

大学では Mary Baldwin College で 1 セメスターだけ、勉強しました。ここも全く都会ではないですが、非常に静かで住みやすい環境でした。車がないので不便に感じることもありましたが、一応キャンパスの近くにバス停もあったし、すぐ近くにダウンタウン（とても小さいですが・・・）もあるので、ちょっとした暇つぶしはできます。街並みも美しくて私はすぐに気に入りました。キャンパス内の建物は真っ白で、外観はとても綺麗に見えます。

◆履修科目

科目履修には結構悩みました。というのも、行く前に事前に希望科目を決めていくのですが、時間割の関係でとれなかったり、履修科目数もかなり限られたりと、（1 セメスターだけは特に）なかなか思っていたよりはうまく取れませんでした。以下が最終的に決めた科目です。

MBC101 ; 留学生必修の科目。

INT ; こちらも必修科目

ENG103 ; 英語の向上のための授業ですが、4 スキルというよりはむしろライティングの授業です。先生、授業の質ともにあまりお勧めできません。特に語学研修を経てきている人には必要ないかもしれません（私は念のためとって見たのですが）

MUS106 ; choir のクラスです。毎回いろんな歌にチャレンジします。私の時はラテン語の曲も！笑 最後にコンサートもあります。気分転換にもなってすごく楽しい授業でした。

FILM254 ; 映画のアナリシスです。毎週の課題として、火曜日に観た映画のレポートを木曜日に提出という、私にとって一番タフな授業でしたが、いろんなジャンルの映画に触れられるし、先生も助けてくださったのでなんとか乗り切ることができました。

COMM100 ; スピーキングのクラスです。最初はスピーキングなんて同女でやってるしな。。。と思っていたのですが、全くイメージとは違いました。この授業は主にプレゼンテーションのデリバリーの仕方を学びました。もちろん何度かプレゼンもします。この授業を通して人前で話すということに自信ができました。なんといっても先生が優しい！

JPNS151 ; 日本語クラスの TA をさせてもらっていた。授業週 3 プラス個人的にセッションを開いてあげなければならなかったのも、時間的にはけっこうこの授業に費やしていました。また毎週一回、授業中に日本文化の紹介もしていました。大変でしたが、教育系に興味のある私にとって、すごくためになる、貴重な経験をさせてもらいました。

◆授業、レポート、定期試験

私が履修していた科目は、ほとんどペーパー重視で、定期試験もすべてペーパーでした。とにかく書いて書いて書きまくる、といった毎日でした。

⑦ クラブ、課外活動、ボランティア活動

COSMOS という国際交流のサークルに入っていました。たまにイベントもあり楽しかったです。

⑧ 現地の住まいについて

留学中は、語学学校期間はアパートで韓国人とルームシェア、大学では寮でした。アパートでは食事は自炊ですし、結構好き勝手に過ごしていました。学校がもっているアパートなので、キャンパス内にあったし、通学はすぐでした。大学の寮も同じくです。ただ、食事はでるのですが、要注意です。高カロリー祭りです。なので、日本食をもっていくことをお勧めします！

⑨ 長期休暇の過ごし方

夏休みは半分、近くのバイブルスクールで少しボランティアをさせてもらったり、友達と遊んだりしていました。残りの半分は旅行です。夏、冬あわせてNY、ワシントンDC、オーランドのディズニーワールドへ行きました。

⑩ 留学期間中の就職活動の取り組み

特にしていません。マイナビ等の就活サイトに登録してプレエントリーしている友人もいましたが、多分それくらいだと思います。特に、その頃は大学での授業、期末への準備等で大忙しの時期なので、就活に時間を割くのは厳しいと思います。でもそこまでスタートダッシュが遅れるわけでもないなので、心配する必要はないと思いますし、きっと皆さんも実際に行ってみると同じように考えると思います。

Ⅱ. 留学の感想

① 留学中で楽しかったこと、最も思い出に残っていること

アメリカでの生活にも慣れてきた残りの4か月間が私にとって一番充実していました。勉強にも追われていましたが、その忙しい中でも時間を見つけて友達とご飯を作ったり、食べにいたりしてワイワイ過ごしている瞬間がほんとうに最高でした。ダイニングホールに2時間滞在とかもありました。日本語クラスのTAを通してさらに交流の幅が広がりました。最後に学生からメッセージカードをもらった時はすごく嬉しかったです。

② 留学中でつらかったこと、最も苦勞したこと

研修期間中はまだ慣れない環境での日本人一人だけという状況に、最初はとてもとまどいました。英語力アップのためとはいえ、言語が全く違う世界で不安に思うことも多々ありましたし、ふとした瞬間に思いっきり日本語を喋りたい！！と思うこともありました。でも周囲の人はみんな温かかったので、その不安もしばらくすればなくなりました。

③ 文化・習慣の違いなどで驚いたこと

MBC は学生が主体となったイベントやサークル活動などが行われているイメージを持ちました。結構積極的な生徒も多く、よくアメリカの授業は日本と違ってディスカッション形式なものが多い、と聞きますが、まさにその通りでした。常に自分の意見を求められます。語学学校先でも同じでした。

Ⅲ. 留学希望者へのアドバイス

① 留学先大学の良かった点、悪かった点

寮の衛生面はあまりよくないです。あとキャンパスが丘の上にあるので、坂のアップダウンが激しいです。一番つらかったのは、私達と同じ時期に留学していた日本の某大学とのトラブルです。勉強、留学に対する温度差があまりにも他学生と違いすぎて、同じ環境でともに勉強するのが嫌になった時もあります。今年だけであってほしいです。

② 日本から持って行って、特に役に立ったもの

キャッシュパスポートがとても便利でした。ATM で現金を引き下ろすこともできるし、カードでももちろん使えます。

③ 語学力の向上等、留学の成果、留学前と後で変わったこと

TOEIC 等の試験結果がまだでていないのではっきりとは言えませんが、リスニングは多少なりとも上がった気がします。スピーキングは確実にあがりました。あと、一年を通してとにかく何かを書くということが多かったので、ライティングにも自信ができました。

④ これから留学をしようと思っている後輩へのアドバイス

向こうではいいことも悪いことも含めて、自分の予期してないことが多々起こるかと思います。様々な出会いもあると思います。国境を越えての交流はもちろん、日本人同士との交流もあるなかで、そうしてできたつながりを大切にしていってほしいです。留学中もその繋がりのおかげで助けられることもあると思います。そして勉強はとにかく頑張ってください！履修科目にもよりますが、やはりどれもしんどいと思います。それでも諦めないで、疑問が出たら先生に聞きに行くことをお勧めします。とにかく誠意を見せることが大切がと思いました。そうすれば、先生もその努力を認めてくれると思います。

Ⅳ. 将来の目標

ここで学んだ経験を生かして、英語の教師として活躍したいです。



ハロウィンの時の写真です。日本では仮装することがなかったので、こちらはやはり本格的ですごく新鮮でした。

COMM の授業の最後に撮った写真です。学生、先生ともに本当に優しく、頼りにもなり、恵まれた環境で授業を終えることができました。



S.I. 英語英文学科・3 年次

I. 留学レポート

① 協定留学を目指した理由

私は高校生 1 年生の時、学校のプログラムに参加しオーストラリアでホームステイをしたことがきっかけで留学してみたいと思うようになりました。その時が初めての海外でしたが、目に入るもの全てが輝いていたのを覚えています。本気で選考を意識し始めたのは大学 1 年生の終わりくらいだったと思います。また、協定留学では現地の学費を同女が負担してくれ単位も互換されるので、金銭面での負担が少なく 4 年間で卒業できるということでこの制度を使うしかない！と思いました。

② 留学を目指してから出願までの英語学習方法

とりあえず毎日 TOEFL の教材に触れるようにしました。Reading は専門用語が多く、わからない単語には線を引くなどして覚えていました。また、学校の資格支援講座に申し込みました。この講座では TOEFL で大事な、答え方の型を教わることができるのですごくためになりました。TOEFL を初めて受けようと思っている人にはお勧めです。教材は TOEFL 大戦略シリーズを使いました。

③ 留学決定から出発までの準備期間

留学が決まってからは少し気が抜けてしまうこともありましたが、以前解いていた問題集を再び解き直したり、日常会話の本を買って読んだりしていました。また、私は語学学校をどこにするかをすごく迷ってしまって、ぎりぎりになって決めたので、留学が決まったらすぐに候補を探しておくのがいいと思います。ビザの申請手続きは無料でやっていただける業者があり、担当の方に任せていました。書類を集め、送られてきた書類にサインをしたり、面接に行ったりするだけで特に問題はなかったです。

④ 現地到着後

空港に MBC のアドバイザーの先生方と学生が車で迎えに来てくれました。シェナンドの空港から学校まではだいたい 40～50 分くらいです。車から、ただただ広大に広がる草原を見て、というか草原しか見えなくて最初は驚きました。

⑤ 語学研修期間

◆語学研修先の施設・環境について

私はサンディエゴの ELS という語学学校に行きました。ダウンタウンに学校があり、とてもきれいです。ホームステイ先からはバスで 10 分ほどかけて通っていました。メトロやバスがたくさんあるので便利です。学校が終わった後は友達とショッピングしたりビーチに行ったりすることができました。サンディエゴはすごく都会というわけではありませんが、自然も街もバランスよく楽しめるととても魅力的な所だと思います。

◆授業内容、課題、試験

ELS では最初にプレースメントテストがあり、12 段階でクラス分けされます。月に一回テ

ストがあり合格すると上のレベルに進むことができます。授業内容はレベルごとに違いますが、基本的な文法やボキャブラリーからディスカッション、スピーチのクラスなどです。上のクラスにいくと、サンディエゴ州立大学の講義に参加する機会もありました。普段の授業はそこまで難しいことはなく、宿題は毎日クラスごとにありますが授業の復習と予習というような感じで負担にはなりませんでした。

⑥ 正規科目履修期間

◆大学の施設・環境について

MBC は、Staunton という小さくてレトロな町にあります。キャンパスは広くて緑にあふれていて、リスがたくさん走り回っています。最初はリスに感動していましたが、もはや普通になります。（スカンクや牛をキャンパスで見るチャンスもありました。）田舎ということに間違いはありませんが、ダウンタウンにはカフェやレストランや映画館があるし、徒歩圏内に薬局やコンビニやスーパーもあります。無料のトロリーもあるので、少し離れた Walmart などにも行けます。学内の施設においても特に不便に感じることはありませんでした。図書館は金曜日以外は夜の 12 時まで開いており、コピーも無料でできます。ただ、私たちが住んでいた寮はあまり環境がよくありませんでした。ヒーターの調節が自分たちではできなかつたり、バスルームが汚かつたり、虫がいたり・・・しかし、ここで強く生きていくことを学んだ気がします。

◆履修科目

大きな試験は中間と期末の 2 回です。期末は自分の受けたタイミングを選ぶことができるので、みっちりやり込むもさっさと終わらせるも自分次第です。また、期末の 1 週間前はレポートの提出ラッシュになりみんな常に追われているという感じで地獄のような期間になるので、計画的に進めることが大切です。本当に。履修は MBC に入る前にだいたい自分で目安をつけておいて、オリエンテーション期間中にアドバイザーの先生と話し合っただけという感じでした。Dr.Miller が私たちのアドバイザーだったのですが、とても親身になって相談にのってくれたので助かりました。

・MBC101(Introduction to college)

このクラスは留学生必修のクラスで、楽しみながらヴァージニアや MBC のことを学ぶ授業です。3 回ほどフィールドトリップがあり、博物館に行ったり学校周辺を先生の解説を聞きながら散策したりしました。宿題はほとんどなく、リラックス科目でした。

・INT130(Introduction to American culture)

これも留学生だけのクラスで、毎回違う先生がいらっしゃって講義をしてくれます。そのため講義内容は毎回異なり、アメリカを色々な切り口から見れるので面白かったです。

・ENG103(English as second language)

このクラスでは語学学校でやっていたような、基本的な文法やエッセイの書

き方について学びました。Writing 中心の授業で、4 回ほど 3 枚程度のエッセイを書きます。正直言って既存の知識で十分にカバーできる内容だったので、とらなくても大丈夫だったかなと思いました。

・ **ENG111(Introduction to Literature)**

文学のクラスで、複数のショートストーリーを読んで作者の意図や時代背景、主人公の行動について分析していきます。毎回物語を読んで内容を理解していかなければならないので、みんなのペースについていくのが少し大変でした。2 週に一回、3 ページほどのリサーチペーパーあるのと、全体を通して 2 回、6~8 枚のペーパーを書きます。こんなに長いエッセイを書いたことがなかったのでできるか不安でしたが、ちゃんと段階を踏んで授業を進めていってくれたので何とかやりきることができました。一番思い入れのある授業です。Reading 力、Writing 力ともにつくと思います。

・ **ANTH120(Cultural Anthropology)**

文化に興味があったのでとりました。様々の民族の文化を学び、文化とは何かということ学びます。毎回 20 ページほどの Reading が予習としてだされ、その内容についてどう思ったかを先生が生徒に問いかける感じで授業が進んでいきます。後半はグループプロジェクトがあり、自分たちで一つの文化を創り上げるということもしました。それぞれの個性が出て面白かったです。みんなで協力してやるのはすごくいい経験になりました。

・ **PHYS171(Tennis)**

私は中学生の時からテニスが好きだったのでとりました。MBC のテニスコートでやります。少人数なのでたくさん打てるのが嬉しかったです。週 2 でテニスをすることになるので、腕はどんどんあがります。基礎からなので初心者でも大丈夫です。

・ **PHYS (Ballroom Dance)**

テニスは春で終わってしまったので、秋からは Ballroom Dance を始めました。社交ダンスのような感じで、ワルツやポルカなど様々なダンスを基礎中の基礎から教えてもらえます。日本にいたら絶対やる機会ないだろうな~と思ってとってみました。未知の世界だったのですがとてもいい経験になったと思います。Victoria Ball という会を先生が開いてくださり、純白のガウンを着て踊りを楽しんだのがすごくいい思い出です。

⑦ **クラブ、課外活動、ボランティア活動**

私はハイキングクラブと、コスモスという国際交流のクラブとサークル K というボランティアクラブに入っていました。最初はミーティングなど真剣な感じで驚きましたが、どのクラブも割とゆるく活動するので心配せずとりあえず入ってみるのがいいと思います。ハイキングは毎週土曜日の朝早くに出発なので起きるのが大変でしたが、けっこう本格的な

山を登って絶景を見ることができます。コスモスは留学生が主で、季節ごとにイベントを企画してくれます。ハロウィンパーティーやカラオケが楽しかったです。サークル K の活動はハイウェイのゴミ拾いを一回したきりでしたが、地域の方と関わる貴重な体験でした。それに加えて、私は地元のシニアセンターで毎週 2 回ほどボランティアとして働かせてもらっていました。内容はイベントの準備であったり、食事の補助や植物の水やり、お年寄りのチェスやドミノの相手など。みんなすごくいい人たちで、行くたびに温かい気持ちになって、楽しんでやっていました。

⑧ 現地での住まいについて

寮・ホームステイの決定方法、設備、食事内容、通学距離・時間など）
ホームステイは語学学校に申し込んで、簡単なアンケートを通して決まりました。これまで何人も留学生を受け入れていたことがあるため、設備は整っていて家も広くて綺麗で住みやすかったです。私以外にも同い年の女の子がステイしていて、友達になれたのもよかったです。ホストマザーは料理が上手で、夜ごはんが楽しみでした。朝、昼は自分であるものを自由に食べたり買ったりしていました。通学時間はバスで 10 分程度です。

MBC での期間は、Woodson という寮に住んでいました。寮はあまりきれいな方ではなく...ただただ綺麗な寮に憧れていました。食事は 3 食ダイニングホールで食べます。美味しい時と適当な時の差が激しいのですが、これもいい思い出です。

⑨ 長期休暇の過ごし方

語学学校が終わってから MBC に入るまでは、たくさん旅行をしました。まず、最初に一人でサンフランシスコを旅して、そのあとニューヨークで MBC にいくメンバーと合流しました。ニューヨークからプエルトリコへ行き、そこからオーランドのディズニーワールドにも行きました。いろいろなハプニングがありましたが、人生で一番刺激が多く、楽しかった夏休みと言っても過言ではありません。幸せでした。サンクスギビングは友達の実家へ行かせてもらいました。アメリカの伝統的な祝日を温かい家庭で過ごさせてもらえてすごく嬉しかったです。

⑩ 留学期間中の就職活動の取りくみ

12 月の上旬に日本では就職活動が解禁ということで、マイナビやリクナビに登録して、もともと興味があった会社にはとりあえずエントリーしました。周りの状況がわからず、不安で若干焦りはありましたが特に何もありませんでした。これは日本にいてもアメリカにいても同じだと思いますが、自分が将来何をやりたいのか、ということは常々考えていた方がいいのかなと思いました。

II. 留学の感想

① 留学中で楽しかったこと、最も思い出に残っていること

たくさんありすぎて選ぶのが難しいのですが、アメリカの様々な場所を旅できたことです。

グランドキャニオンの赤茶色の岩肌、プエルトリコの暗闇で光る海、サンフランシスコのかわいい街並み…今思うと夢のようです。また、サンディエゴで私がホストマザーに日本のカレーを作ってあげた時にこんなに美味しいもの今まで食べたことない！！とすごく喜んでくれたのも思い出に残っています。あとは韓国の親友ができたことです。私がサンディエゴを去るときに家でちょっとしたパーティーを開いてくれたり、ほぼ毎日一緒に遊んでいました。

② 留学中でつらかったこと、最も苦勞したこと

渡米した最初の 1 週間は慣れないことが多く苦勞しました。衝撃だったのは、語学学校で一番初めに入ったクラスの生徒が、私を除いてほぼ全員サウジアラビアの男の人ばかりであったということです。最初は話しかける勇気もなく、くじけそうでした。しかし、少し経つとみんなが話しかけてきてくれて、私も自分から動くことが大事だと思いアラビア語の挨拶を覚えて話しかけてみたりすることで仲良く慣れました。

Ⅲ. 留学希望者へのアドバイス

① 留学先大学の良かった点、悪かった点

規模が小さくてアットホームな雰囲気である点と、学生への勉強面でのサポートが手厚い点は良かったです。Writing center で出す前のエッセイが添削してもらえたり、Black board というサイトで自分の現時点での成績を確認することができます。先生方も本当に親身になって勉強の相談にのってくれます。また、イベントが多いのも好きな点でした。悪い点は、寮に差があることです。きれいな寮に憧れていました。

② 日本から持って行って、特に役に立ったもの

パソコン、化粧品（化粧水、乳液、洗顔料）、日本食、あつさり系のドレッシング、iPod touch、大きめのリュック、電子辞書、消しゴムなどです。特に化粧水・乳液はなかなかいいものが売っていないので、多めに持っていくのがいいと思います。私は残り 1 か月というところでそれらをきらし、つけるとむせかえる化粧水（1 週間かけて探した）を仕方なく使っていました。

③ 語学力の向上等、留学の成果、留学前と後で変わったこと

留学の経験全てが自分の成長につながったと思います。自分を情けないと思った日々も、心が折れそうになったことも、全部です。状況を変えられるのは自分しかいないんだと思って乗り越える強い心を手に入れられたことも成果の一部です。また、TOEFL の点数は 10 点上がりました！！大きな成長です。世界の離れた国に住む人々と知り合うことができ、繋がることができたことにも喜びを感じています。留学に行かせてくれた両親や応援してくれた人には心から感謝しています。

④ これから留学をしようと思っている後輩へのアドバイス

行きましょう！留学してみたいな～でも TOEFL 高いし難しそうだし、どうしよう…大学 1 年生も終わりかけた時、私はこんなことを思っていました。でも思い切って一回 TOEFL

を受けてみました。迷っていても時間は過ぎて行ってしまうものです。私はあの時行動を起こしてよかったと思います。これがきっかけで本気で留学を目指すようになりました。周りの人に、私留学したいんだ、って言うことで自分にプレッシャーをかけたりもしました。留学は一生ものの経験です。その先には素晴らしい出会いや体験がまっているので、頑張って選考に臨んでほしいです。応援しています！！

IV. 将来の目標

① 今後の進路、将来の目標・夢

進路は未定ですが、自分の納得できる道に進んでいけたらいいと思います。将来の目標は、海外に家を買って時々遊びに行くことです。この留学中に会った人々に再会することも夢の一つです。

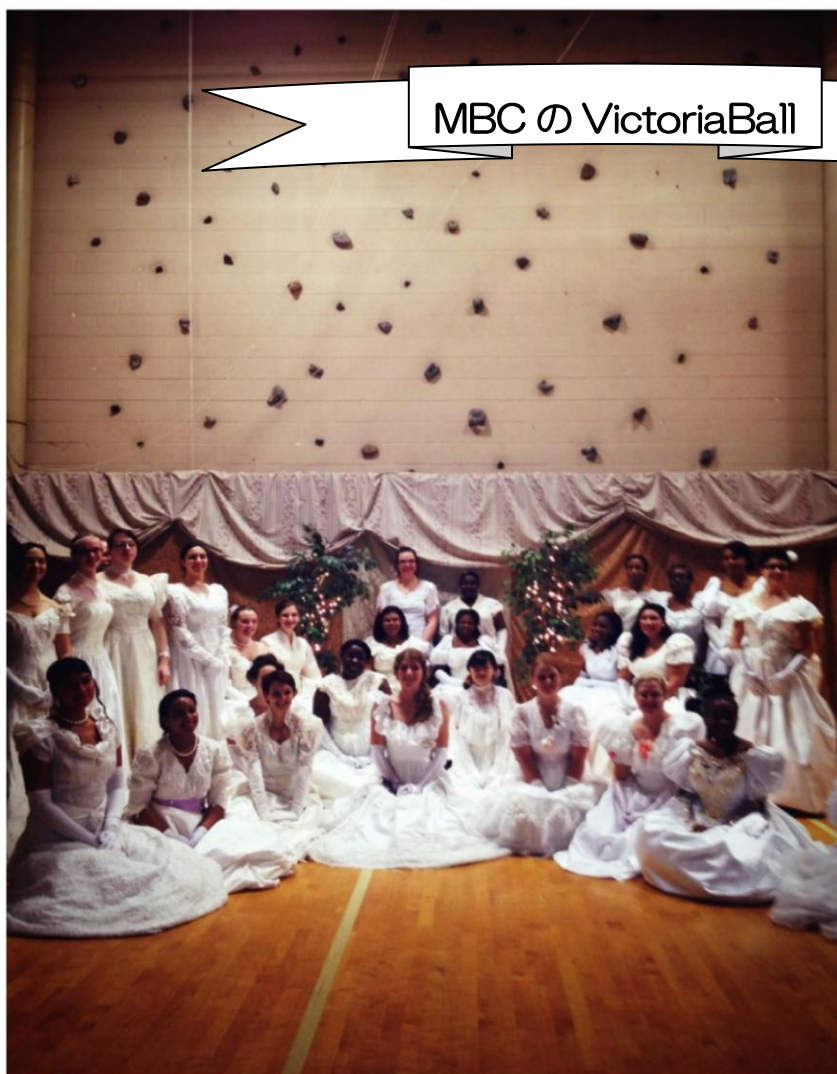


サンディエゴはとにかく海がきれいで学校終わりや休日は良くビーチに行っていました。

韓国人のベストフレンド
とルームメイトと。



MBC の VictoriaBall



M. W. 英語英文学科・2 年

I. 留学レポート

① 協定留学を目指した理由

私は幼いころから客室乗務員になるという夢があります。その夢を叶えるため、英語力を身につけたいと思い、また自分自身でより多くの国を見たい、世界を知りたいと思い、高校生の頃から海外留学することを 1 つの目標として英語学習に取り組んでいました。留学プログラム等も 1 つの基準に大学を選び、大学入学後も海外留学を目標にしていました。留学体験記を読んだり留学に行った先輩方のお話を伺い、現実的に留学のことを考え、本気で目指すようになりました。

② 留学を目指してから出願までの英語学習方法

TOEFL 合宿に参加したり、TOEFL の講座を受講したりしました。

③ 留学決定から出発までの準備期間

留学が決定してから語学の勉強はあまりしていなかったように思います。語学勉強よりは留学先に持っていったフォトアルバムの作成や、日本について英語で説明できるよう準備をしたりしていました。ビザ申請の手続きはトラブル等があった場合を考えて仲介業者（留学サイトドットコム）にお願いしました。会社の手厚いサポートのおかげで何のトラブルもなくスムーズにビザを取得することができました。

④ 現地到着後

<Seattle>

すべて仲介業者（留学サイトドットコム）の方に手配していただきました。語学学校の担当者の方が空港まで迎えに来てくれ、ホームステイ先まで連れて行ってくれました。到着した翌日からオリエンテーションが始まり、全ての手続き等も仲介業者の方がサポートしてくださったので何のトラブルもなくスムーズに手続き等を行うことができました。また、オリエンテーション期間中にクラス分けテスト（筆記・面接）がありました。

<San Francisco>

空港からホームステイ先までは仲介業者（留学サイトドットコム）が手配してくれた乗合の車（Super Shuttle）で行きました。サンフランシスコに到着して 5 日後にオリエンテーションが始まりました。ここでも何のトラブルもなくスムーズに手続き等を行うことができました。ここでもオリエンテーション期間中にクラス分けテスト（筆記のみ）が行われました。

<Mary Baldwin College>

空港から学校までは学校の先生・生徒が迎えにきて連れて行ってくれました。到着した日の翌日から 1 週間ほどのオリエンテーションがあり、この期間に諸手続き等もしました。

⑤ 語学研修期間

◆語学研修先の施設・環境について

<Seattle (ESL)>

ESL という語学学校に 1 ヶ月間通いました。語学学校はダウンタウンに位置しており、学校の前にバス停もあり、近くには電車の駅もあるので交通の便はとても良い場所でした。また、ダウンタウンにあるので学校の近くには多くのショップやデパート、レストランがあり、授業後や授業の空き時間に買い物に行ったりカフェに行ったりしました。

<San Francisco (San Francisco State University)>

San Francisco State University 付属の語学学校に 3 ヶ月間通いました。ダウンタウンからは離れたところに位置していますが、学校の周囲にはバス停や電車の駅があるので交通の便は問題ありませんでした。また SFSU はキャンパスがとても広くキャンパス内に様々なカフェやショップがあります。

◆授業内容、課題、試験

<ESL Seattle>

ESL では speaking, writing, reading のクラスがあり、文法、単語、エッセイの書き方等を学びました。課題はテキストの問題を解く程度のものが毎日出ていました。週に一度（クラスによる）小テストがあり、月に 1 度クラス替えのための大きいテストがありました。

<SFSU>

SFSU は大学付属の語学学校であり、SFSU は第二言語習得や教授法の研究に力をいれていることで有名な大学なので、授業内容も独自のものでした。私は大学進学コースを受講していたので、クラスメートは皆アメリカでの大学進学を目指している人でした。大学ではアメリカの大学でのプレゼンテーションの仕方、ノートの取り方、エッセイの構成の仕方、リーディングにおいて要点の見つけ方など大学入学後に役立つことばかりでした。課題はとても多く大変でしたが、力を付ける意味で大変役にたちました。

⑥ 正規科目履修期間

◆大学の施設・環境について

大学は田舎にあり、交通の便はあまりよくありません。しかし、Staunton の街並みや MBC のキャンパスはとても美しく、勉強するには最適の場所です。

◆履修科目

全教科アメリカ人のルームメイトにアドバイスをもらい、決定しました。

◆授業・レポート・定期試験

・ COMM 100A Public Speaking

授業：プレゼンテーション、スピーキングの授業です。全 3 回のプレゼンテーションと、数回のスピーチがありました。とてもためになる授業で、先生も素敵な方でした。

レポート：なし

定期試験：プレゼンテーション

・ENG 103 English As A Second Language

授業：エッセイの書き方を学びました。エッセイの提出が3回ほどありました。

レポート：エッセイ（final essay: 映画“マトリックス”について）

定期試験：なし

・INT 130 Introduction To American Culture

授業：アメリカ文化についての授業です。毎回講師の先生が授業をしてくださいました。時には課外授業もありました。

レポート：毎回トピック終了後にレポート（2～3枚程度）を提出しました。

定期試験：ありません

・MBC 101 Orientation To College

授業：INT130 Introduction To American Culture と同じ様な授業です。

レポート：何度かレポート（2～3枚程度）を提出しました。

定期試験：なし

・PHE 100A Fitness

授業：毎回異なったテーマで時には外部から講師の先生が来て、楽しく運動や健康について学びました。

レポート：毎回授業後に異なったテーマについてレポートを提出しました。

定期試験：テストはありませんでしたが、最後にレポートを提出しました。

・PHE 179A Beginning Horseback Riding

授業：計5回、近くにある牧場で乗馬の練習をしました。牧場の方が基礎から教えてくださるので初心者でも楽しく、また素敵な思い出を作ることができます。

レポート：授業後簡単なレポートを書きました。

定期試験：最後の授業後に簡単なクイズがありました。

・SOC 112 Social Problems

授業：アメリカの社会問題について毎回違ったトピックを学びました。大変でしたが、最も“授業らしい授業”でした。

レポート：最後に8枚ほどレポートを書きました。

定期試験：大きなテストが3回ありました。

⑦ クラブ、課外活動、ボランティア活動

運動不足解消を兼ねて週二回ズンバに参加していました。この活動を通して友人の輪が広がりました。その他には“コスモス”と呼ばれるインターナショナルサークルにも所属していました。ハロウィンパーティーなど楽しい行事がいくつかありました。

⑧ 現地での住まい

語学研修期間は Seattle, San Francisco 共にホームステイしていました。Seattle のホストは4人の生徒を受け入れており、SF のホストは最大12人の生徒を受け入れていました。

ホームステイの手配はどちらも仲介業者（留学サイトドットコム）にお願いしました。どちらも学校まではバスで 30 分程度です。公共交通機関を使うということも私にとってはとても良い経験になりました。またどちらのホストも大変親切で本当の家族のように受け入れてくれ、食事内容にも大変満足しました。

MBC に在学中は大学の寮に住んでいました。アメリカ人（2 年生）と日本人（創価大学の 3 年生）と 3 人部屋でした。寮の設備、食事内容共に不満はありません。

⑨ 長期休暇の過ごし方

現地の友人たちと旅行しました。（ラスベガス、コロンビア、ワシントン DC、ボストン、ノースカロライナ、マイアミ、ニューヨークなど）アメリカ国内だけでなく国外（コロンビア）に行ったことはとても良い経験になりました。1 年生の頃に参加したイギリス研修で友達になった子に会うためコロンビアへ行き、ホームステイをさせてもらい、様々な経験をすることができました。また、MBC で同室になったアメリカ人の子が車を持っていたので、長期休暇に限らずほぼ毎週末旅行に連れて行ってくれました。

Ⅱ. 留学の感想

① 留学中で楽しかったこと、最も思い出に残っていること

この 1 年間を通して世界中に友達ができました。本当に人に恵まれていたと思います。大好きな友人たちと過ごした毎日は本当に楽しかったです。普段の何気ない会話から旅行に行ったことまで全てが思い出です。

② 留学中でつらかったこと、最も苦勞したこと

Seattle, San Francisco では学校にもホームステイ先にも日本人がいないという環境でした。最終的には 4 ヶ月間英語だけの生活を送ることができ自分で実感できるほど英語力が伸びたのですが、日本語話者がいなかったのも全ての問題を英語で解決しなければいけなかったことはアメリカでの生活が初めての私にとっては大変でした。特に最初の 1 ヶ月はとても苦勞しました。

③ 文化・習慣の違いなどで驚いたこと

文化・習慣の違いがあまりないことに驚きました。それぞれの国によって多少の違いはあるものの、マナーや習慣などの国もあまり差がないように思いました。

Ⅲ. 留学希望者へのアドバイス

① 留学先大学の良かった点、悪かった点

MBC は田舎にあり交通の便はよくありませんが、Staunton はとても素敵な街で、MBC のキャンパスもとても美しいです。世界一美しいキャンパスだと思います。また生徒同士だけでなく、生徒と先生の距離が近いところも魅力の 1 つだと思います。

② 日本から持って行って、特に役に立ったもの（パソコン持参の有無も含めて）

パソコンは持参しました。大学内ではどこでも wifi が使えるのでパソコンは持参したほう

便利だと思います。私は京都や地元を紹介するためにフォトアルバムを作成して持参しました。話が広がるし、日本や私自身について紹介することができたので大変役に立ちました。

③ 語学力の向上等、留学の成果、留学前と後で変わったこと

リスニング力、スピーキング力は自分でも実感できるほど向上しました。語学学校期間中に日本人がいなかったこと、MBC でアメリカ人とルームメイトになったことで、この1年間ほとんど英語で生活していたからだと思います。今では映画・ドラマ等字幕なしでほとんど理解できます。またほぼ毎日友人達と電話しているのですが、自分の思いを伝えることにあまり苦労しなくなりました。

④ これから留学をしようと思っている後輩へのアドバイス

長年、留学することを1つの目標にしていました。留学を現実的に見て考えるようになった後も TOEFL の点数が思うように伸びず、何度も諦めようと思いました。実際に両親には休学して自費留学をしたいという話もしていました。だけど TOEFL スコア提出が迫り、諦めの気持ち半分で最後東京にまで受験に行きました。東京で受けた最後のテストが最も手応えがなく、受験後、交換留学を諦めました。だけど、その最後のテストで基準点をクリアすることができました。夢を叶えることの難しさも経験しましたが、最後の最後まで諦めないことの大切さを改めて実感しました。

渡米前は不安でした。しかし今は「この1年間は今まで生きた21年間で最高の1年間だった。」と胸を張って言えます。最後の最後まで諦めず夢を掴んでください。自身を変える最高の経験をすることができると思います。

IV. 将来の目標

① 今後の進路、将来の目標・夢

留学を終え、様々な背景を持った多くの国の友人ができ、人與人・国と国を繋ぐグローバルな仕事がしたいと強く思い、客室乗務員になりたいという思いがよりいっそう強くなりました。この留学経験を活かし、世界を舞台に活躍できればと思っています。大学を卒業するまでにもう一度友人に会うため、世界各国を訪れたいです。

Seattle 最後の日に台湾・中国・韓国出身の友達がチャイニーズ・レストランに連れて行ってくれ、パーティーを開いてくれました。



MBC ハロウィンの日にティンカーベルになり、近所のおうちに“Trick or Treat”をしに行きました。



San・Francisco 学校の友達と学校のオリエンテーション期間中にアクティビティでクルージングに行きました。



A. K. 英語英文学科・3 年次

I. 留学レポート

① 協定留学を目指した理由

入学当初は語学力を上げる為に、短期の留学に行きたい、と思っていました。大学で英語を学ぶにつれて、長期で留学したいと思うようになりました。私は入学前、2 セメスターの留学は長すぎると言って、親が勧めていた長期留学必須の国際教養学科の入学を辞退して、英文科に入学しました。だからこそ、長期留学したいとは、親になかなか言い出せず、ずっと迷っていました。二年次の夏に国際交流センター主催の『TOEFL キャンプ』に参加して刺激を受け、それ以降は、2 セメスターの留学をして、英文学科で学べない科目を履修してみたい、と思うようになりました。協定留学を強く目指すようになってからは、親を説得したり、TOEFL の申し込みをたくさんしたりして、本格的に動き出しました。

② 留学を目指してから出願までの英語学習方法

TOEFL キャンプに参加するまでは、(恥ずかしながら) 自主的な勉強は全くしていませんでした。TOEFL キャンプを終えてから、TOEFL を受けるまでの約一ヶ月は勉強しようとしました。が、ほぼ毎日、部活動やアルバイトがあり、なかなか時間がとれなかったので、すきま時間を有効的に使いました。電車やバスの移動中に、リスニング教材を聞いたり、リーディングの問題集を解いたりしていました。家で時間がとれた時には、スピーキングやライティングの問題を解きました。(採点や添削はしてもらっていませんでしたので、問題演習というよりは、問題傾向に慣れるために解いていました。) 他の問題集を試していないので分かりませんが、TOEFL ゼミナールが出版している、TOEFL 対策シリーズを 4 セクション分と単語帳を手に入れました。個人的に使いやすいとは思いましたが、一ヶ月で問題集を終えることができず…どれも手付かずで終わってしまいました。留学に行きたいと思ったその時から対策を始めておくべきだったな、と思います。

③ 留学決定から出発までの準備期間

上記と同じく、部活・アルバイトばかりで、なかなか勉強する時間がとれず、授業の課題で英語に触れる程度でした。冬に英検を申し込んでからは、(TOEFL の) 単語帳や英検の問題集で勉強し、英語を毎日聞くようにして耳を慣らそうと試みました。移動中やバイトの休憩中、寝る前などの隙間時間には、いつもリスニング教材の CD やニュースを聞くようにしていました。(効果があったかどうかは分かりませんが…)

語学学校を決めたのが 2 月頃で、入学手続きを済ませ、ビザ申請に必要な書類が届いてから申請しました。大学内の成績証明書や高校の成績証明書は、前もって取り寄せていたと思います。ビザ発行までに時間がかかる可能性がある、と聞いて不安でしたが、案外すぐに発行されたと思います。旅行会社がビザ代行してくれる制度があるそうですが、ネットで調べたり、語学学校から来た案内を見たりしながら、自力でできると思います。

④ 現地到着後

伊丹空港からの出発だったのですが、空港で I-20 を忘れたことに気づきました（というより、入国に必要なものだと思っていませんでした）。I-20 無しでは、アメリカに入国出来ない為、その日のフライトには乗れないかも知れません、と地上係員の方に告げられ、空港でとても焦りました。結果的には、その日の予約していたフライトに乗り、I-20 無しで入国出来たのですが、シカゴ空港での手続きに時間がかかり、乗り継ぎ便に乗り遅れそうになりました。また、一ヶ月の一時入国許可という形で入国したので、ワシントンの領事館に書類（I-20 と他の書類）を送ったりしなければなりません。そして、一ヶ月たっても、領事館から返事が返って来なかったのも、入国許可されているのか、とても不安でした。語学学校の先生に問い合わせてもらい、許可されたと確認が取れましたが、実際に I-20 が返送されてくるまでは安心できませんでした。それ以来は、『命とパスポートの次に大事な I-20』だと肝に銘じていました。

到着空港からの移動手段に関しては、ホストファミリーが迎えに来てくれるというのが約束のホームステイのエージェントを使っていたので、空港の荷物受け取り口で会いました。オリエンテーションが始まる一週間前に到着していたのですが、時差ぼけがなかなか治らず、また、することもなかったので、学校が始まるまでは、昼夜逆転した生活をおくっていました。こんな生活をしていたが故に時差ぼけは治らず、結局学校が始まってから、やっと治りました。

⑤ 語学研修期間

◆語学研修先の施設・環境について

ペンシルバニア州にある、ピッツバーグ大学付属の語学学校に通いました。施設は、1、2 年前に移転したばかりらしく、設備・備品共にきれいでした。また、図書館やジムは大学の施設を使えるので便利でした。ピッツバーグは、都会もあり、田舎もあり、住みやすかったです。

◆授業内容、課題、試験

3 段階レベルがあり、その中の中級クラスで授業を受けました。週に 4 日間、50 分×5（文法＋4 技能）の授業がありました。過去の先輩の留学体験記を読んでいて「語学学校は簡単でした。」と書いてあるのをよく見かけたため、簡単であると思っていました。しかし、私にとって語学学校は一番苦勞した時期であると思います。同じクラスの他の留学生は流暢に話せる人ばかりで、始めは焦るばかりでした。が、話している所を聞くと文法がめちゃくちゃな人もいたので、トータルで見ると私とレベルは同じだ、と言いかせて自信を持つようにしていました。

試験はそれほど難しくはなかったように思います。しかし、スピーキングのテストはペーパーで受けるものだったので、相手に迷惑がかからないか、何も話せなかったらどうしよう…など、一週間くらい前からずっと緊張していました。

課題はそれほど多くはなかったのも、TOEFL 対策の勉強や課外活動などに力を入れること

ができました。

⑥ 正規科目履修期間

◆大学の施設・環境について

寮はきれいだとは言い難いですが、学校内の施設はきれいで、新しいほうであると思いました。自然がたくさんあり、また、建物との調和がとても素敵です。キャンパスは、割と建物が密集しているので、移動が楽でした。大学があるスタントンは、少し田舎ですが、自然がいっぱいでとても綺麗な街です。過去の先輩の留学体験記を読んでいて、『田舎』『不便』という言葉が目立っていたので、何にもないのだと覚悟していました。しかし、学校付近にはカフェもあり、シャトルに乗ると、ちょっとした買い物にも行けます。都会に住みなれた方には不便とを感じるかもしれませんが、私は不便だと思うことはありませんでしたし、これくらいの街のほうが、落ち着いて勉強も出来ると思います。正規履修期間中は、課題や予習で自由に使える時間が減るので、都会だったら、逆に遊べなくてつまらなかったかもしれません。

◆履修科目

オリエンテーション期間中に、履修したい科目をある程度決め、その後、担当の先生と相談して仮決定しました。実際に授業を受けて、最終決定するための修正期間が一週間程設けられていました。私は授業に出てみて、思っていた授業と違うと思った科目があり、修正・変更しました。しかし、定員がいっぱいになり、後から追加できない科目がたくさんありました。また、この期間でも授業はどんどん進み、宿題もたくさん出るので、変更科目を決めるまでは焦りでいっぱいでした。

・ Orientation to College (MBC 101)

留学生必須の科目でした。忙しい時期に、レポート提出やプレゼンがある時は、面倒だな、ということもありましたが、基本的には息抜きのような楽しい授業でした。二回のフィールドトリップもあり、楽しかったです。

・ Introduction to American Culture (INT 130)

留学生必修の授業でした。毎授業、様々な分野の教授がゲストスピーカーとして来て、講義して下さいました。毎回、いろいろな話が聞けたので良かったです。レポートが数回ありましたが、テストはありませんでした。

・ Marketing Principles (BUAD 230)

200 番台の授業でしたが、専門知識がなくてもやっていけました。小テスト 5 回とファイナルがあり、テスト範囲が毎回広く浅くという感じでした。が、先生は教科書に沿った授業をしないので（雑談が多かったです…）自分で教科書を見て勉強するのがメインでした。質問に行くと優しく答えてくれ、とても優しい先生なのですが…お勧めはしません。

・ Women's Studies (WS 100)

ディスカッション形式の授業でした。様々な分野（政治・経済・人種など）と交差しており、とても興味深く、一番楽しかった授業であります。が、内容が難しく、また、課題量も

毎回多く、先生の評価も厳しくて、つらかったです。履修した科目の中で一番苦労した科目です。チューターを付けてもらったので、週に一度、質問に答えてもらい、補足してもらえました。チューターにはとても助けて頂きました。試験は中間・期末と両方あり、難しかったです

・ **General Sociology (SOC 101)**

社会学の概論の授業で、講義が大半、グループワークが4、5回ありました。先生が授業に赤ちゃんを連れてきていたり、しょっちゅう休講になったり、遅刻してきたりと、びっくりすることが多かったです。週1、2回のウェブテスト（簡単）とファイナルテスト（難しいが事前に類似問題が発表される）でほぼ成績が決まります。専門的な知識を身に付ける、というよりは、社会学的な考え方を身に付ける為の授業で、幅広く浅くトピックを取り扱います。

・ **Tennis (PS 170A)**

テニスは初心者向けの授業で、基礎からきちんと学びました。しかし、基礎の基礎なので、ソフトテニスを経験していた私は、練習内容が少し退屈に感じました。ほとんど皆、初心者なので、テニスを経験したことが無い人でも安心して履修できると思います。テストもありましたが、ルールや名称を覚えていれば簡単にできるものでした。レポートのトピックは自由でした。

⑦ **クラブ、課外活動、ボランティア活動**

語学学校に在籍していた時には、学校が紹介するボランティアに参加しました。学校でのボランティアやイベントのお手伝いが多かったです。現地学生が夏休みだったため、大学のクラブに参加する機会はありませんでした。（探せば活動している部活もあったのかもしれませんが。）

MBC に滞在していたときは、国際交流の Cosmos、Circle K、ハイキング部にサインアップしました。Cosmos と Circle K は何回か参加しましたが、ハイキング部は最初の集會に参加した程度でした。

⑧ **現地での住まい**

◆ **語学研修期間**

ホームステイしていました。語学学校が紹介するホームステイのエージェントを利用していました。手続きは語学学校の日本事務局が仲介して下さったので、スムーズに進みました。ステイ先は、一人部屋（12畳位の部屋で広かったです）を使っていました。寝具やデスクライト等は準備されていました。割と放任主義の感じだったので、気を遣う必要もなく楽でした。通学時間は一時間（バスを2本乗り継ぎ）と近くはなかったですが、日本でも通学時間に一時間以上かかっていたので、苦にはなりませんでした。ピッツバーグ大学の学生証があれば、市内の交通機関全てを無料で利用できるのので、交通費はかかりませんでした。

◆ **正規科目履修期間**

寮に住むことが義務付けられていました。事前に寮についてのアンケート回答をMBCに送りましたが、希望は叶わず、ルームメイトは日本人でした。（今年度は寮の制度の移行期間で試用期間だったらしいので、このようなことは今年だけなのかもしれませんが。）学内の Woodson という寮に住んでいました。比較的、古い寮でしたが、普段住むにあたり影響は無いです。部屋は三人部屋用だったので、割と広かったです。寝具やスタンドライト等は、各自用意しなければなりませんが、オリエンテーション中に、先輩が残して下さった物を引き取り出来る機会があるので、そこでほぼ全て手に入れました。寮が教室や図書館まで徒歩3分以内の場所にあったので、とても楽でした。（ついつい、服装や化粧には気が緩んでしまい、今思うと恥ずかしいような格好で毎日過ごしていました。）食事は、最初はおいしいと思っていました。しかし、メニューはパターン化されている上、味付けが似通っているので飽きました。フライドポテトには飽きは来ず、ほぼ毎日食べていたので、太りました。（入学の時に着ていたスーツが入らなくて、親に怒られながら新しいスーツを購入しました。）

⑨ 長期休暇の過ごし方

夏休み中の計画が決まる前は、どのように過ごしたらいいのかとても不安でした。結果的には、1ヶ月前位に計画を立て終えたと思います。移動手段やホテルの値段はどんどん上がっていくので、もっと早くに予約すればよかったと思いました。夏休みは同女の友人や高校の同級生と一緒に、ニューヨーク・プエルトリコ・オーランドで過ごしました。帰国直前は、ニューヨーク・ワシントンDCで観光し、（往復の航空券を買っていたので）ピッツバーグに戻り、語学学校の友人に会ってから帰国しました。

旅行にはお金をたくさん使いましたが、こんなにいろんな場所に自由に行けるのも滅多に無いことだと思うので旅行してよかったです。色々とハプニング（飛行機に乗り遅れたり、最終バスに乗り遅れたり…）もありましたが、今となっては全てがとても良い思い出です。

⑩ 留学期間中の就職活動の取り組み

SPI対策のテキストを持っていきましたが、取り組む時間はほぼ無かったので、ただの荷物になりました。12月になってから、マイナビとリクナビに登録し、留学前にチェックしていた業界や企業に（100社くらい大雑把に）プレエントリーしました。しかし、行けもしない説明会の案内メールが大量にくるばかりで、正直なところ、焦るばかりでした。本当に興味のある企業以外のプレエントリーは帰国後に増やせばよいと思います。不安な気持ちもありましたが、アメリカにいる間は就職活動のことは忘れて、勉強に集中したり、休暇を楽しんだりしようと心がけていました。

周りよりスタートが遅れるのは事実ですが、帰国後はしばらく授業も無く、時間があるので、遅れを取り戻せると 생각합니다。私は、行きたい業界や職種が決まっていなかったなので、1月中は、業界問わず様々な説明会に行きました。現在就職活動中ですが、遅れはそれほど気にならないです。

Ⅱ. 留学の感想

① 留学中で楽しかったこと、最も思い出に残っていること

休暇中に旅行して、色々な場所に行けたことです。旅行した場所全てが印象的で、それぞれに違った良さがありました。特に、カリブ海領域の離島プエルト・リコは、日本からはなかなか行ける場所では無いので、行ってよかったと思いました。（プエルト・リコの財政が破綻する前に行けてラッキーでした。）

また、日本人を含め、たくさんの方に出会えたことがとても楽しかったです。

② 留学中でつらかったこと、最も苦勞したこと

スピーキングにとっても苦手意識があり、苦勞しました。語学研修中、同じクラスの留学生は流暢に喋れるのに、私は喋れず、始めのころはとても辛かったです。特にスピーキングのクラスでは、なかなか向上が感じられず、不本意に終わったテストも多くあり、スピーキングの授業中に泣いたこともあります。でも、その時に慰めてくれる友人がおり、随分と周りの友人に助けられました。

もう一点は、なぜか電子機器に恵まれなかった点です。日本では全くといって良いほど、機械トラブルや紛失物が無かった私ですが、アメリカ滞在中はかなり不運でした。例えば、『iphone』（MBC の校内で紛失し、結局見つかりませんでした。）、『USB メモリ』（帰国一ヶ月前位に突然壊れ、大学入学から保存してきた写真やレポート類が全て消えました）、『iphone の充電器』×2（非正規品だったから、というのがありますが、日本から持っていった物・アメリカで購入したもの、両方とも壊れました。）など、とても不便でしたし、写真が消えたりしたことは、本当にショックでした。

③ 文化・習慣の違いなどで驚いたこと

私自身、マイペースで大雑把で、てきとうな面が多いのですが、時間のルーズさにはびっくりしました。交通機関でさえも時間にルーズであったことには、さすがに呆れました。帰国して、電車を利用した時、5分遅延しただけで謝罪していたことに感動しました。これは、ほんの一例に過ぎませんが、日本に居ると当たり前のことが当たり前でない、ということがたくさんありました。

Ⅲ. 留学希望者へのアドバイス

① 留学先大学の良かった点、悪かった点

良かった点：留学担当の先生の支援が手厚いこと。チューターの制度やライティングセンターなど、留学生を支援してくれる制度がたくさんありました。あと、適度に田舎だったので、いい意味で勉強に集中できる環境にあったことです。また、寮生活ですが、一緒に外出したり、食事をしたりする、ホストファミリーを紹介してくれたので、とても良い家族に出会えました。

悪かった点：今年度が、制度の移行期間だった、ということらしいのですが、寮の部屋の割り当てに恵まれていなかったことです。

② 日本から持って行って、特に役に立ったもの

パソコン、携帯（iPhone）、電子辞書、クレジットカード、キャッシュパスポート、スリッパ（スリッパが売られているのをあまり見なかったです）、常備薬

あと、正規履修期間中にドレスコードで出席の行事が何度かあったので、フォーマルな服装を持っていけばよかったな、と思いました。（私は語学研修中に、現地で購入しましたが、探すのに一苦労しました。）

③ 語学力の向上等、留学の成果、留学前と後で変わったこと

リスニング力・ライティング力に関しては随分上がったと思います。帰って来て、二週間後に TOEIC を受けたのですが、ある程度満足ができる点数が取れました。（点数としては、100 点くらい上がりました。）スピーキングは、元が全然できなかったもので、ある程度までは上がったと思います。しかし、すべての状況において満足に話せるレベルまでは至りませんでした。しかし、帰国直前にピッツバーグに戻った際に、多くの方に褒めていただけたので、少しは進歩したのかな、と思います。語学学校時代の友人だけでなく、初対面の方（現在語学学校で T A をしている方たち）にもスピーキング力を褒めて頂いたときは、留学してよかったな、と思いました。

性格の面では、自覚はありませんが、周りの人から、最近よく喋るようになったね、とか、自信がついたね、と言われます。留学のおかげなのかは分かりませんが、確かに、人見知りすることは少なくなったと思います。

④ これから留学をしようと思っている後輩へのアドバイス

私は入学当初から、留学に行きたいという気持ちはありましたが、なかなか決心できず、結果、TOEFL 対策の勉強もかなり遅れました。今、後悔することは、もっと早いスタートを切っておけばよかった、ということです。もし、少しでも留学がしたいという気持ちがあるようならば、今すぐ勉強を始めて下さい。今すぐ始めて損は無いですし、選べる大学の幅も広がると思います。

私は留学が決まってからも、アメリカに行くまでは「語学学校をどこにしようか」「携帯はどうするのだろう」「言葉は通じるのだろうか」「飛行機の乗り換えはできるか」「家族と離れてやっていけるのか」…など、不安だらけでした。しかし、今思うことは、『案外行ってしまうと、なんとかなる』ということです。振り返ると、日本に居たときに不安に思っていた事でも、知らない間に簡単に乗り越えていたことも多々あります。なので、今あれこれ悩む必要は全くないと思います！（準備や心構えは必要かもしれませんが。）悩む暇があれば、英語の勉強をするほうが、時間を有意義に使えます。

あと、何か質問があれば、（私でよければ）何でも聞いてください！

IV. 将来の目標

① 今後の進路、将来の目標・夢

就職希望で就職活動中です。業界は絞っておらず、満遍なく受ける予定ですが、願わくは、

海外と繋がりをもつ企業に就職できたらいいな、と思っています。今後の目標としては、もっと英語力を身に付けていくことです。在学中に、英検、TOEIC、TOEFL で目標とする級・スコアを達成できるように勉強に力をいれたいと思います。



MBC のすぐ近くにあるスタントンのダウンタウンです。街並みがとてもきれいで、お気に入りの場所でした。何軒かあるカフェやレストランは、お洒落な雰囲気の中で、食べ物もおいしかったです。

Fall break 中に、母と弟がアメリカに来てくれたので、NY で合流し旅行しました。少しは成長した姿を見せることができた…？と思います。



Y. M. 英語英文学科・2 年次

I. 留学レポート

① 協定留学を目指した理由

私が留学を目指したきっかけは自分の英語の会話力のなさに愕然としたからです。私は中高一貫の学校の普通科に通っていたので英語の授業はリーディングと文法が中心でした。だから、英文科に入って週に 1 回あったスピーキングのクラスが苦痛で仕方ありませんでした。クラス分けのテストで運よく 1 番上のクラスに入れたのですが、クラスメイトは国際科出身や留学経験のある人がほとんどだったのでみんなネイティブの先生と会話することに慣れていたし、発音もすごくきれいでした。そんなメンバーの中で私 1 人だけ発音の練習をさせられることが頻繁にあったのでその当時の私にはそれがとても悔しかったです。このような体験から、もっとネイティブスピーカーに自分が言いたいことを伝えられるようになりたいと強く思うようになりました。そのためには留学しかないなと考えたのがきっかけです。そして、私が協定留学をめざした時期は 1 年生の秋学期です。その時期にちょうど AES コースに入るためのテストがあり、これでもし AES コースで勉強することができたら協定留学を試みようかなと漠然と考えていました。2 年生になり、AESA クラスで勉強することができたので本格的に 3 年次の協定留学を目指し始めました。だからと言って 2 年生になってから勉強し始めたわけでもなく、バイトと課題を必死にこなす毎日を送っていました。2 年生の夏に友達の黒木さんと国際交流センター主催の TOEFL 合宿に参加しました。そこで他学科からの協定留学を目指している人たちに会って刺激を受けました。また、合宿で TOEFL-iBT テストとはどのようなものなのかを知り、今までのほとんど過ごしていた自分にとっても後悔しました。そこで出会った同学年の友達はすでにテストを受けておりこの時点で自分は出遅れているなととても焦った記憶があります。しかし、この合宿に参加したことによってこの夏の目標も出来、素敵な友達とも出会うことができたのですごく良い経験になりました。

② 留学を目指してから出願までの英語学習方法

TOEFL 合宿から帰ったあと、とりあえず受けてみなければならぬと思いテストを受けました。テストまで 2 週間弱あったので TOEFL-iBT の公式ガイドを購入しました。購入したのはよかったのですが、分厚すぎてやる気が出なかったので合宿で習ったリスニングのやり方とライティングの形式をさらっと確認して初めてのテストに臨みました。約 5 時間にも及ぶテストは初めてだったのでヘトヘトになったのを覚えています。完全に準備不足だったので結果は 51 点でした。私の目標は 58 点以上だったので程遠い結果となりました。出願期限まであと 2 回受験できることが分かったので次はきちんと準備をすることを心に誓いました。そこで、私が以前参加した協定留学説明会で先輩が紹介なさっていた Z 会出版の「受験英語からの TOEFL Test iBT リスニング」というテキストを購入して 1 冊終わらすという目標を立てました。本番と同じように問題文は読まずにいかに多くの情報

をメモするかに重点を置いて勉強を進めていました。あとは TOEFL 合宿に参加したときにももらったトフルゼミナールの「TOEFL TEST 対策 iBT スピーキング」を使って勉強しました。こちらも本番と同じように時間をはかり、自分の声をボイスレコーダーに録音して勉強しました。しかし、なかなか時間内に答えることができずイライラしていました。ライティングは気が向いたときにパソコンのメモに打つ練習をしました。リーディングはトフルゼミナールの「TOEFL TEST 対策 iBT リーディング」を使っていましたが、難しかったのでほとんどしませんでした。そうしているうちに 2 回目の受験日になりました。要領がわかっていたので 1 回目よりも落ち着いて解くことができました。結果は 57 点であと少し及びませんでした。だから、最後の 1 回に賭けることになったのですが大阪周辺の会場での受験を申し込もうと思ったら、すでに満席になっていたので名古屋まで受けに行くことになりました。受験計画はしっかりすべきだと反省しました。最後の受験の結果 61 点を取ることができたので無事出願することができました。

③ 留学決定から出発までの準備期間

準備期間はビザの申請手続きにとりかかりました。エージェントに依頼するという方法もあったのですが自分ですることになりました。インターネットで調べながら進めて行っただけですが、ビザ申請の面接予約に至るまでに踏まなければならない段階がいくつかあってその度、混乱していました。わからないことがあると一緒に留学が決まった友達にやり方を聞いていました。一番心配していたことは面接です。インターネットで調べた結果、面接は英語でしかも答え方によってはビザが発行されない場合があるということを知りました。だから、なぜビザが必要なのですか。という質問に 7 ヶ月間語学留学するからです。という答え方を英語で何度も練習しました。当日、必要書類をそろえて淀屋橋の米国領事館に行き面接を受けたのですが、ネイティブスピーカーの方が流暢な日本語で「大学名を教えてください。」と「留学期間はどのくらいですか。」という質問をしてきたので戸惑いながら日本語で答えたのを覚えています。無事にビザが発行された後は、ホストマザーと連絡を取ったり、大量の予防接種を受けたりしました。語学勉強は小学校のころに通っていた英会話教室に顔をだしてネイティブの先生と会話の練習をしました。1 回 1 時間ほどだったのですが、沈黙が続くときもあったので先行きに不安を覚えました。余談になるのですが、語学学校選びにはとても苦労しました。アメリカの大学に留学する人はアメリカ国内の語学学校で大学進学準備コース(10 週間以上)があるならばどこに行っても良いという決まりでした。情報がゼロの状態から 1 校を選ぶのは大変でした。私の場合、ステイ先を両親の知り合いでニューヨークに住んでいる日本人の方のおうちにすることを最初に決めたので、そこからニューヨークにあるコロンビア大学付属の語学学校を選びました。

④ 現地到着後

現地到着後、JFK 空港にはホストマザーが迎えに来てくれていました。面識はなかったのですが、日本人なのでゲートを出てすぐに見つけることができました。空港から家までは 1 時間強かかりました。私は語学学校が始まる 1 週間前に到着したので、最初の 1 週間は

マンハッタンをぶらぶらしていました。この時期は時差ボケがひどくて午後 2 時から 3 時の間に決まって強烈な眠気に襲われていたので図書館に入って奥の棚の椅子に座って寝ていました。アメリカに来て 2 日目にホストマザーと連絡を取るために携帯電話を買ったのですが、プリペイド携帯を英語でなんていうかわからずおどおどしていたら、ガラケーなのにカバーとイヤホンが 25 ドルで買わされました。これ以上カモられないように会話力をきちんとつけようと心に誓いました。地下鉄の乗り方やチケットの買い方、地下鉄車内のアナウンスの不親切さ、時刻表のない駅構内などたくさんのことに戸惑いながらも自分なりにマンハッタンを探検できた 1 週間でした。オリエンテーションでは、まず 1 か所に集められるのですが、その時に日本人の少なさにびっくりしました。その日に事前にインターネットで受けていたテストの結果に基づいたクラス発表と授業が 1 コマだけありました。そこでクラスに日本人がいないことがわかり少し泣きそうになりました。授業料、語学学校の保険料は後日オフィスに行って、トラベラーズチェックで支払いました。

⑤ 語学研修期間

◆語学研修先の施設・環境について

コロンビア大学の ALP コースを受講しました。コロンビア大学はキャンパスがあり、たくさんの建物があるのですが Summer A、B（7 週間）の期間は一つの建物内ですべての授業を受けました。夏休み期間中だったのでネイティブの学生と関わることは一切ありませんでした。ランチタイムになると学校周辺にたくさんレストランがあったのでクラスメイトと食べに行きました。クラスメイトはサウジアラビア人、フランス人、中国人、韓国人、台湾人、イタリア人、トルコ人、日本人などいろんな国の人々と出会えました。最後のセメスターである Summer C ではクラスの半分以上が中国人で休み時間には中国語が飛び交っていたので中国に来たのかと錯覚しそうになりました。中国人の友達によると団体で申し込んだ人が大半だそうです。出身国のかたよりをどうにかしてほしいともありましたが、みんなフレンドリーでとてもいい子たちでした。特に Summer C ではクラスのみんなでごはんを食べたり出かけたりすることが多かったのでとても楽しかったです。彼らとは今でもラインでやりとりをしていて、先日、難波でその時出逢った韓国人の友達と夜ご飯を食べました。いろんな国の人々と友達になれたので語学学校に行ってよかったと感じました。

◆授業内容、課題、試験

授業 1 コマ 3 時間で途中に休憩が 15 分～20 分あるというものでした。3 人の先生が曜日によって交代で授業をするというスタイルでした。主任の先生は週 3 時間あとの二人はそれぞれ 2 コマ、1 コマという感じです。ライティングやリーディングなどというくりはなく、授業内に 4 技能すべて勉強しました。週ごとにメインテーマが決まっていてそれに関わる内容の文章、映像、リスニング、ディベート、発表などを行いました。Summer C はアクティビティーが多く、授業で MoMA（美術館）、ブルックリンブリッジに行きました。課題は毎回の授業が終わるごとに出了ました。Summer B が 1 番きつくて 4 週間の間に本を一冊

読み切るというものでしたがグループワークな上に授業中にチェックがなかったので真剣にしている人はあまりいませんでした。サイエンスフィクションだったので出てくる単語が難しかったです。週に 1 回はエッセイを書きました。ただ、2 枚弱ほどの短いものだったので大した内容の物は書いていませんでした。試験はセメスター終わりにエッセイを書くというスタイルでした。その結果によって次のセメスターからクラスが下がっている人が何人かいました。

⑥ 正規科目履修期間

◆大学の施設・環境について

私はバージニア州のスタントンにある Mary Baldwin College で勉強しました。リスがたくさんいるとてもどかなキャンパスでしたが、最初のころはスターバックスが近くにないので嘆いていました。だけど、よくよく探検してみると徒歩 5 分のところにはかわいい雑貨屋さんや雰囲気の良いカフェが立ち並ぶダウンタウンがありました。私は自室の机の上が汚すぎてほとんどそこでは勉強できなかったもので、週末はカフェで勉強することもありました。キャンパスに一番近いのは Coffee on the Corner なのですが、少しコーヒーの値段が高いので私のおすすめは少し歩いたところにある Staunton Coffee です。アイリッシュクリーム入りのラテが絶品です。寝泊りしていた寮はキャンパス内にあったのでダイニングホール、図書館、教室などにとっても近く便利でした。図書館は平日は夜中の 12 時まで開いています。

◆履修科目

・ Focus on Women(WS100)

私が唯一履修したネイティブの学生と共に受けたアカデミックの授業です。女性学の授業で女性の立場を歴史、政治、人種、職場、家庭などいろんな角度から学ぶ内容です。これは日本で 1 度昨年の授業カタログを見ていたときから興味があった授業なので担当の先生との話し合いの結果履修することに決めました。週 3 回の授業。

・ English as a Second Language I(ENG103)

これは留学生のみが受講するライティングの授業です。あまり今まで意識していなかった文法のミスなどに気付くことができました。ただ、教科書、授業内容ともに語学学校でしたことの方が有用だったので語学学校の授業を受けたことがある人にはおすすめしません。ライティングが苦手なので受講を決めました。週 3 回の授業。

・ Public Speaking(COMM100 A)

留学生のみのプレゼンテーションの授業です。2 週間に 1 度クラスメイトの前で発表があります。ネイティブの学生 4 人がサポートしてくれます。彼女たちがリーダーとなって 4 グループ（1 グループ 3～4 人）に分かれてプレゼンのテーマや構成についての話し合いをしながら訂正などをしてもらいます。先生がとても優しくて留学生からも大人気でした。い

ろんなプレゼンの種類（紹介、説得、お祝いなど）の勉強をしました。また、握手の仕方アイコンタクトの取り方などアメリカならではの授業もありました。私は人前で発表することが苦手だったので受講を決めました。週 2 回の授業。

・ Introduction to American Culture(INT130)

いろんな授業を担当されている先生が毎週交代で講義をしてくださいました。私が履修していない経済、教育、歴史のお話が聞けてとてもためになりました。これは留学生の必修科目なので受講しました。週 1 回の授業。

・ Orientation to College (MBC101 I)

この授業も留学生のみのもので、Mary Baldwin College の歴史やダウンタウンへのツアーなど大学についてのことや学校の制度について週替わりでいろんな授業の教授から教わりました。授業時間外に 3 回遠足に行きました。これも留学生の必修授業なので受講をしました。週 1 回の授業。

・ Mary Baldwin College Choir(MUS 100)

合唱のクラスです。生徒の中には音楽を専攻している人もいたので上手な人が多かったです。12 月に 1 回教会でコンサートをしました。ラテン語と英語の歌詞は大変でしたが、先生がユニークな方だったのでリラックスして受講できました。アカデミックの授業以外にこのようなものも受講できます。他にはヨガや乗馬、テニスがありました。私は運動が嫌いなので choir に決めました。週 2 回の授業。

◆授業、レポート、定期試験

ほとんどの授業形式は生徒参加型でたくさんの生徒が発言していたので最初はとても驚きました。授業中は発言してこそ価値があるのだと感じました。板書をする先生も少なく聞き取れた内容もメモしていました。エッセイの宿題は ENG103、INT130、MBC101 のクラスで出ました。また、WS100 はファイナルペーパーがあって人生で初めて 6 枚以上のリサーチペーパーを書きました。定期試験は中間と期末があって、WS100 は両方、COMM100 は期末がありました。WS100 はすべて記述式で中間テストのときは Study Guide とほぼ同じ単語、エッセイのお題がでたのですが、期末テストは Study Guide とは全く違う問題しかでなくて泣きそうになりました。また、期末テストのときは辞書持ち込みの許可をもらい、試験時間も本来 3 時間のところ無制限でした。5 時間かかりましたが、なんとか解き終えることができました。COMM100 の期末テストは 5 分以上のスピーチでした。私は日本の英語教育について発表しました。どのように授業を進めるか、課題の量、定期試験の有無は授業初日にシラバスが配られるのでよく目を通しておくことをおすすめします。（私は WS100 の 1 回に 20 ページ以上のリーディングがあるという課題の量を把握せずに履修を決めたので後悔していた時期がありました。）

⑦ クラブ、課外活動、ボランティア活動

クラブはアニメクラブに入っていたのですが、活動が金曜日か土曜日ではほかの用事や課題で活動に参加できないことが多かったです。イベントはアップルデーとハロウィンがとて

も印象に残っています。アップルデーには朝早くにりんご農園に行ったりりんご拾いをしました。ダイニングホールではりんごをつかったランチが出ました。ハロウィンにはホットドッグの仮装をして授業に出ました。学校内のハロウィンイベントに参加してたくさんの人たちと写真撮影や、ゲームに参加しました。そのほかにはビンゴゲーム大会で参加者全員が真剣そのものだったのがとても面白かったです。

⑧ 現地での住まい

語学学校研修期間：ホームステイをしていました。ホストファミリーは両親の知り合いの日本人家族だったので個人的にコンタクトを取ってステイさせていただくことになりました。部屋は地下1階フロアを全部使わしていただけたので、自分用のシャワーとトイレ、テレビがありとても快適でした。食事は全部ホストマザーが作ってくださり和食が出る日もあり毎日おなかがいっぱいなるまでおいしい食事を食べていました。通学には電車で片道1時間20分かかりました。マンハッタンには住んでいなかったのが家から駅までのバスなどがなく、駅まではホストマザーに送っていただかなければならなかったのが、週末に出かけることはほとんどありませんでした。

正規科目履修期間：寮生活をしていました。2人1部屋で、ルームメイトはネイティブの学生だと日本で受けた説明会で聞いたのですが、今年度は制度が変わって留学生同士が1フロアに集められていました。シャワー、トイレは共同でお世辞にもきれいとは言えない寮でしたが、同じ寮のネイティブの友達は素敵な人々でいっぱいでした。食事は毎食ダイニングホールでとるのですが、味付けは全くないか濃すぎるかのどちらかでした。野菜はサラダバーしかなく、野菜が嫌いな私はほとんど野菜を食べずに3か月を過ごしました。ダイニングホールに飽きたらダウントウンにある中華料理屋さん、ピザ屋さん、カレー屋さんに行っていました。ピザを取ったりもしました。寮はキャンパス内にあるので授業に遅れることなく行けました。

⑨ 長期休暇の過ごし方

最初にある Fall Break のときは寮にのこることができたので、買い物に行ったり、ランチを食べに行ったりのんびり過ごしていました。私の場合は Fall Break 前に中間テストが終わっていたのでよかったのですが、中には Fall Break 後にテストがあった友達がいたので大変そうでした。次にあったのが Thanksgiving Day です。この休暇は絶対に寮をでなければいけないので友達とワシントン DC に行きました。この旅行は絶対に寮を出なければならぬと聞き決めたのですが、休暇が近づくにつれてたくさんのネイティブの友達がうちにおいでよと言ってくれたので急いで決める必要はなかったなと思います。この休暇中に DC の近くに住んでいるネイティブの友達のおうちにお邪魔して伝統的な Thanksgiving の料理（ターキー、マッシュポテトなど）をごちそうしてもらいました。とてもおいしかったです。また、帰ってくる日と寮が開く日がずれていたのが Public Speaking の先生のおうちに泊らせてもらいました。先生のおうちでは2人のお子さんたちと一緒にジブリ映画を見てまったり過ごしました。この旅行のときに大変だったのは悪天候で DC 行きの飛行機がキ

キャンセルになって空港で5時間ほど待たされたことです。スタッフの対応のいい加減さにはとても腹が立ちましたがアメリカだからしょうがない部分もあったのかなと感じます。しかもこの行きのフライトがキャンセルになったせいで私の帰りの飛行機の予約がおかしくなってしまったようで席がないかもしれない事態に陥りましたが、親切なスタッフさんたちのおかげでなんとかなりました。Thanksgiving Day にはブラックフライデーという日があり金曜日の深夜からセールがあり主に家電が安くなるというイベントがありました。私はファッションモールに行ったのですが、衣服はそこまで安くありませんでした。このようにハプニングもたくさんありましたが、旅行先でおなかいっぱい食べるだけでなく、様々な体験ができたのでとても有意義だったと思います。

⑩ 留学期間中の就職活動の取り組み

進学か就職かをずっと迷っていたのでなにもしていません。

Ⅱ. 留学の感想

① 留学中で楽しかったこと、最も思い出に残っていること

留学中で楽しかったことはいろんなところに旅行にいったことです。語学学校中に同じ学校に通っていた日本人の友達とナイアガラ滝を見るツアーに参加しました。ニューヨークのチャイナタウンからバスが出たのですが片道9時間くらいかかりました。ナイアガラ滝をアメリカサイド、カナダサイドの両方から見るツアーでした。そのバスの中で一人旅行している日本人の女の子と友達になりました。彼女は2月からアメリカの大学に交換留学で来ている学生で同い年ということもあって大学生活がどのようなものなのか、授業はどのような感じなのかなどを話して道中を過ごしました。ナイアガラ滝は予想以上に迫力があって行ってよかったなと感じました。ツアーが終わってチャイナタウンに戻って来たときに3人で食べたジョーズジャンハイの小龍包は最高においしかったです。語学学校が終わって大学が始まるまでに3週間ほど時間があつたので同女からの友達とニューヨーク、プエルトリコ、オーランドのディズニーワールドに旅行に行きました。日本ではなかなかいけないようなところに旅行に行けたのは本当にラッキーでした。ニューヨークの語学学校に通っていたとはいえ週末はほとんど家に居たので観光らしいことはこのとき初めてしました。プエルトリコは自然豊かな地域でツアーに参加して森を探検したりカヌーに乗ったりしました。海もとてもきれいでした。ディズニーワールドは以前行ったときには怖くて乗ることができなかったエベレストというジェットコースターに乗れたことを誇りに思いました。素敵な体験ができた旅行でした。あとは、語学学校とMBCでたくさんの友達ができたことです。特にMBCを出るときに「帰って来られないの？」と聞いてくれた友達ができたことは本当にうれしかったです。

② 留学中でつらかったこと、最も苦勞したこと

アメリカに行ってから1か月はすごくつらかったです。特に語学学校での Summer A の期間は相手が言っていることはかろうじて理解できても、なんて英語で答えればいいのかわか

らなくて Yes か No しか言えずに会話が終わってしまうこともたくさんありました。だから先生やクラスメイトから **You are shy.**と言われるたびにほんまはシャイじゃないし日本語やったらめっちゃ喋るのにとすごく悔しくて帰りの電車では何度もこのまま日本に帰られへんかな〜と考えていました。だけど、語学学校が始まって 3 週間が経って **Summer B** のセメスターになると日本人のクラスメイトが増えて彼に英語で会話するコツを教えてもらっているうちに段々英語で話すことに慣れてきたように感じます。もう一つ苦労したのは 1 つのトピックについて意見を言うことです。例えば、語学学校で先生が急に” **What do you think about the online dating?**” という風に私たちに質問をしてくれます。私がもたもたと考えている間にほかのクラスメイトはガンガン手を挙げて答えていくのです。手を挙げる勢いと内容の深さに驚きました。それと同時に自分が今までいかに 1 つのトピックについて深く考える練習をしてこなかったかを実感しました。それから 1 つのトピックについてきちんと筋の通った意見を言えるように練習しました。だけど、すぐにできるようになるものではなく、なかなかうまくならなかったのでディベートの時間は自ら発言することもありませんでした。この 2 つが留学中に主に苦労したことです。

③ 文化・習慣の違いなどで驚いたこと

MBC では寮やキャンパス内で目が合うと **Hi.**と挨拶をするのが普通でした。また、教室移動をしているときなど急に知らない生徒から **I like your shirt!**と声をかけられたりしました。最初はすごく驚きましたが、途中から段々その習慣に慣れてきました。特に仲良しになったネイティブの友達とは会ったらハグが当たり前でした。また、授業スタイルの違いにはすごく戸惑いました。1 つの授業では生徒参加型である生徒が発言するとその発言に対して他の生徒が反論するという形で授業が進んでいったので最初のうちは生徒の言っていることが分からなくて困ったこともあります。あと、1 回の授業ごと宿題の多さが日本でした宿題の比ではないと感じました。しかも 1 つの授業が週 3 であるのでその度に宿題がたまっていとも宿題に追われていました。授業ごとに違いがあるとは思いますが、私がメインにしていた **WS100** の授業はリーディングの量がえげつなかったです。

Ⅲ. 留学希望者へのアドバイス

① 留学先大学の良かった点、悪かった点

良かった点：留学生へのサポートがしっかりしていました。例えば、私が **WS100** の授業についていけないとアドバイザーの先生に相談したところ、すぐに対応してくださり、以前その授業を取っていた生徒にチューターを頼んでくれました。そのチューターの方には週 2 で授業内容の質問や宿題を手伝ってもらいました。彼女のおかげで最後まで授業を受け切ることができました。ファイナルペーパーや普段のエッセイで文法や構成が不安なときはライティングセンターが毎日あいていたのでそこに行って直してもらいました。また、留学生のために **conversation partner** を募集してくれるというシステムがありました。私は **conversation partner** とは週に 1 回ほど会って話していました。彼女にはすごく良くしても

らったので、この機会を与えてくれた大学にはとても感謝しています。

悪かった点：ダイニングホールの食事がまずいことこれに尽きます。

② 日本から持って行って、特に役に立ったもの

パソコンは絶対必要です。ただ、私のものは持ち運びに適したタイプではなかったので持ち運ぶときには重くて大変でした。持ち運びに便利という点では Mac book Air が適しているのではないかと思います。あとは、iPhone も Wi-Fi があれば使えたので便利でした。衣服や生理用品はいざとなったら買えるのでそこまで量はいらなと感じました。ただ、薬や洗顔、歯磨き粉は日本から持って行った物しか使えませんでした。文房具も日本製のものが 1 番です。メガネは壊れたとき用に 2 個以上の持参をおすすめします。私はハードコンタクトを使っていたのですが、アメリカでは主流ではなかったので保存液は売っていませんでした。ソフト用のものは売っていました。

③ 語学力の向上等、留学の成果、留学前と後で変わったこと

私は笑顔で英語を話せるようになったことが 1 番の成果です。確かにまだまだ相手の言っていることは完全に把握できないし、完璧に自分の言いたいことを伝えるのは難しいです。だけど、英語を話すということ自体には抵抗を感じなくなりました。この変化は小さいことかもしれませんが私の中ではすごく大きいものでした。留学の成果は早寝早起きができたことです。留学をするまで実家暮らしだった私は夜遅くに寝て朝ぎりぎりに起きるという毎日を送っていました。アメリカで生活すると今まで頼りにしていた母の声と父の足音がないので iPhone の目覚まし音で起きることに成功しました。朝シャワーをするようになったのも大きなきっかけになったのかもしれません。朝 7 時まで起きて必ず朝ごはんを食べて 12 時まで寝るという生活を 7 か月間送れたことは私のちょっとした自慢です。このおかげで私ってやればできるのかも！と少しだけ胸を張って言えるようになった気がします。ただ、共同生活は良い面だけではなく、大学生活では見せることのなかった一面を同女から行ったみんなには見せてしまい申し訳なく思うこともありました。だけど、そんな私をいろいろ助けてくれたみんなには本当に感謝しています。彼女たちが居なかったら途中であかんかったやろうな～という場面はたくさんあったので。だから、ネイティブの友達を作るとはもちろん大切だけど、日本人同士で助け合うことも大切であることも学びました。留学に行く前はこの留学で私は変わる!なんて意気込んでいましたがそんな劇的な変化はなかったです。だけど、留学に行かなければできなかった体験ができたこと、出会えなかった人々に出会えたことは今後の私の人生に強い影響を与えるのだと思います。だから、このような機会を与えてくれた両親には心から感謝しています。

④ これから留学をしようと思っている後輩へのアドバイス

留学しなければわからないことがたくさんあるので悩んでいる暇があったら挑戦してみてください。日本ではできないような素敵な体験ができます!!1 人でも多くの人が協定留学に興味を持って挑戦してくれたらいいなと思います。留学体験記を読破したら早速 TOEFL の勉強に取り掛かってください！

IV. 将来の目標

① 今後の進路、将来の目標・夢

今後の進路は日本の大学院に進学して英語教育について勉強しようと思います。いつかアメリカの院で TEOSL の勉強をしたいという夢もあります。英語教育を通じて たくさん
の人々の役に立つことが私の目標です。

Conversation partner と

